

## 「+ランチパーティ」開催

HIV陽性者、パートナーが参加することができる交流会「+ (プラス)ランチパーティ」が、5月23日にネストで行われました。SHARE、クリアチーボス、アーユス、JaNP+の協力を得て、国籍やセクシュアリティを超えた30名が楽しく集い、また気づきの多い交流会となりました。

### 「+ランチパーティーに参加して」 ヨシ

このパーティーは、2月のカップル交流会で次回の企画をいろいろ話し合った結果、これまではある特定のセクシュアリティだけしか参加していないので、もっとたくさんの人・国籍や性別や地域などの壁を越えて・が気軽に参加できるようにと企画されたものです。そして、僕も企画や運営の担当の一人として携わりました。でも当初は、何分初めてでもあるため、会場はどうでしょうか、料理はどうでしょうか、参加者の制限はするのか、などと試行錯誤を繰り返した後、5月に入ってようやく協力団体の確認も取れ、パーティーの内容や、流れなどが決まり、当日を迎えました。

さて当日は、一昨日の台風の影響なのか午前中には小雨が降り、5月なのに肌寒く、来てくれるだろうかと心配しましたが、12時を過ぎるころには会場一杯の人が来てくださり、用意したテーブルに料理が置けないぐらいでした。さて、生島さんの司会でいよいよ始まり、最初の挨拶を自分のパートナーがするので、自分が話さないのに緊張していました。グランドルールを確認し、SHAREの沢田さんの乾杯のあとに歓談となりあちこちに談笑の輪が広がり、とても和やかな雰囲気です。パーティーが進んでいきました。

途中で、カップル交流会や陰性パートナーミーティングなどの話をJ氏からしてもらった後に、JaNP+の長谷川さんから現在のHIVの状況などを話して頂き、最後に朗読した素晴らしい自作の詩を聞いた時に、まだまだ治療を受けられなくて困っている人や、治療していても周りに理解してもらえない人がいなくて、一人で悩んでいる人も、たくさんいるんだなあ実感し、パートナーを支えつつも(自分が支えられているかもしれないが)パートナーと共に、少しでもお役に立てればと思いました。

パーティーは終始和やかに、料理は不思議と重なることなく全ておいしくて、参加した人が本当に来て良かったという笑顔(と勝手に思っているのですが...)だったので、開催して良かったという達成感で一杯になりました。参加した皆さんが最後にひとことずつ挨拶や感想などもお話ししてくれるのを聞いていて、さらに今年で終わることなく、毎年開催できればいいなと思いました。

### 「Thank you」 Green tea

プラスランチミーティングに行って本当に良かったです。このようなコミュニティの場に出るのは初参加で少し緊張もしましたが、自然にみなさんと有意義な時間を過ごす事が出来ました。私は紙に書かれている情報よりも来ている人の体験談など身近な話しが聞きたかったのです。今の私を理解してくれる人、先輩が側にいることで気持ちがとても楽になりました。私の場合、地方に住んでおり東京ほど情報・コミュニティは無く、また家族・友人にも病気の事を隠しているため既に気持ちが一杯いっぱいでした。昨年後半から体調不良が続き毎日無理して生活をしていました。まさかその時はこの病気だとも思わなかったし病気の知識・認識を甘く考えていたからでしょう。今年二月に高熱で倒れ、たまたま拠点病院に運ばれ即入院、少し時間がかかりましたが病気のことがわかり告知を受けました。告知は今まで味わった事がない絶望感で自分が体から飛び出してしまうような感じでした。3ヶ月の入院中、病気に関する情報は唯一 ACCの手帳と先生や医療スタッフの話でした。退院してから私は病気に関する情報・



話ができる方を探してネットサーフィンの日々でした。その時にふれいす東京のHPを見つけました。HPの内容でクリック出来るところは全てクリックし、かみ締めながら内容を読みました。イベント・学習のページのところに到達した時にプラスランチミーティングの募集を見つけました。その時点で3日前でしたが即メールで申し込みをしました。当日どんなランチパーティーになるのか正直少し不安でしたが周りの方のみなさんと料理が私の緊張をほぐしてくれました。とにかくみなさんが笑顔でフランクに接してくれました。話しの内容も薬の事や生活・仕事の事パートナーの事などなど、先輩方の話を聞いた時は医療者から聞くよりもとても身近に感じられ自分に対する自信も出てき、また温かい気持ちになりました。その時にやっと決めて一人じゃないんだと思いました。久しぶりにたくさん笑いました。帰りは何か少し体が軽くなった感じがした。家族からもいいこと何かあった?と言われるほどでした(笑)。次回またランチミーティングがあったら是非一品何か手料理を作ってください!! スタッフの方々・参加者のみなさん本当にありがとうございました。

### 「君は独りじゃない...」 ルイス

今回のパーティーはとても楽しかったです。ありがとうございました。書きたいことは沢山あるのですが、今回は少し控えめにコメントをすることに致します。

私がHIVに感染していること分かった時、自分の周りにその事実を喋れる人が誰もなくて、自殺まで考えました。ここ日本で、言葉の通じないことが一番辛いことでした。言葉が分からないので、HIVに関する情報収集もできず、とても不安な日々を過ごしました。自殺をする場所と日にちまで決めて、その前日に上智大のミサに行った時、教会でポルトガル語で書かれてあるパンフレットを手にしました。そのパンフレットよりクリアチーボスのことを初めて知り、教会から出てすぐにクリアチーボスに電話をしました。その時電話を取った人がルイスさんでした。その後病院への同行、心のケア、バックアップ、社会復帰まで手伝ってもらいました...

先日のようなパーティー・ミーティングはとても重要だと思います。一人でHIVと戦っている人はまだ沢山いると思います。戦う力を持っていればまだいいのですけれど、生き続けることを諦めている人も沢山いるのです。このような会を、もっと幅広くそのような在日外国人に知っていただきたいと思います。各国の大使館や領事館、そのほか国連事務所、宗教団体、入国管理局、区市役所の外国人登録係、国際交流協会等に、先日のようなパーティー情報のパンフレットを配布、もちろんこれからの花火大会の情報も、そして外国人向けのホームページに情報を流して困っている人を温かく迎えてあげてはいいかがでしょうか。皆さんのすばらしい活動をもっと沢山の人たちに、知っていただきたいと思います。

また皆さんと次の機会に会うのを楽しみにしています。

### 「在日外国人コミュニティとHIVをめぐる」

アーユス仏教国際協力ネットワーク 枝木美香  
私は、在日外国人の方でHIVに感染した方のサポートを仕事の一部としている。支援者のネットワークを作り、協力しながら医療通訳を派遣したり、治療にたどり着けるような支援をしたり、もしくは無事に帰国できるためのお手伝いなどを行っている。特にタイ国籍の方や、英語圏の方のサポートを中心にしているのだけど、当事者同士の連携を図るということは、特にタイ国籍のコミュニティの中ではまだまだ難しい...この場を借りて理由を考えてみたい。

滞在資格がない！保険を持っていない！更生医療を使う権利がない！ないないづくしになってしまうのが、超過滞在者の場合。日本に在る限り、治療につながる見込みがないために、多くは帰国を選択する。免疫力が残っていてまだ働ける場合は、ある程度のお金を貯めるまで頑張る場合もあるけれど、多くの場合は症状も進んでいるために、体力があるうちに帰国する場合が多い。

日本人との婚姻関係によって滞在資格はあって、治療もつなごうけれども...

「パートナーの生活が安定していなくて、まだ働かないといけないうのです」住んでいるところが遠くて、ちょっと都内まで出てくるのは大変(外国人を雇用する工場は都心にはない)です」「パートナーと一緒に暮らしてはいるけれど、もしかすると別れるかもしれない...このままだと滞在資格を失うかもしれない、ととても不安定な状況にいます」「他に同じような境遇のタイ人がいるのかしら？いたとしても私が置かれた立場は特別だから悩みを共有できるとは思えないわ」「自分のことは自分でなんとかできるから...」「今、一生懸命に日本社会で妻として生きようと思っているので、他の活動にまで頭がまわりません」などの言葉が聞こえてきそう。日本人の目から見れば、比較的シャイな人が多いと思われるタイ人が、諸条件をクリアして日本人感染者と交流を持つに至るには、まだまだたくさんのステップを踏まないといけないと思う。しかし、特に日本人のパートナーを持ち、これからの人生を日本で過ごそうと考えているタイ人感染者にとって、日本社会の感染者コミュニティの中に入って行くのは、悩みを共有し、情報を交換し、そして元気をもらうことにつながると思う。タイ人と日本人カップルの場合でも、どちらかが非感染者ということはある。同じような立場の人々と交流することで、カップル間でこそ生まれる悩みでも解消の道が見えるかもしれない。

今回の+ランチミーティングも、ここまで大きく開催されるようになるまでには、長い道のりがあったと聞いた。外国人コミュニティも、まずは同じような境遇の人とか比較的同じような地域に住む人たちに声をかけて、お茶会からでも始めるといいかもしれない。私自身、サポーターという立場で参加させていただいて、とても楽しくて元気になる時間を過ごすことができた。タイ人感染者とも、こんな楽しい時間を共有することができるのなら、タイ人コミュニティにも何か変化が起きるかもしれない。今、そんな考えが頭の中を駆けめぐっている。

### 「うれしかった」 ミャンマー人の男性

わたしは、ぶれいす東京と会って、とてもうれしいです。私たち、外国人の病気のために助けてくれる、ぶれいす東京のグループとてもありがたいです。私達、外人のためにもとてもパワーをもらいたいな感じになりました。だから、ぶれいす東京ほんとにありがとうございました。



この病気のために、いろいろ助けてくれたから、うれしかった。入院した時には、自分と違う病気の人と一緒にだったので、話したことない。さわだ先生にあった、一番よかったのは、医師にあったこと、彼にであえてよかった。うれしいです。わたしの病気のための、いろいろ助けてくれたからうれしい。

さわださんから、他の国の人がくるかもしれないといっていた。一番たのしかった。パーティでは、みなさんといろいろなことを話げできた。前にネストでみたことがある人に一人だけあったけども、パワーをもらうような感じになる。自分の身の回りはそういうことがぜんぜん、なかったから、とてもよかった。自分の病気のこととか、自分の感じのことを話したから。

また、チャンスがあったら、ぜひ参加したい。

### 「+ランチパーティを終えて」 JUN

去る5月23日に行われ、大盛況のうちに終了した+ランチパーティについてスタッフからも活動報告をとのことで、稚拙な文ではありますが、ペンをとり、いやPCに向かっての次第です。

そもそもなぜ今回の企画が生まれたかということ、源泉をたどると行き着く先は陰性パートナーミーティングになります。陰性パートナーミーティングに顔を出していた方々がパートナーも交えて一緒に食事をしたり、遊びに行ったりしたいねと言って始まったのが、カップル交流会です。過去に数回、このカップル交流会が行われてきましたが、集まるのはいつもゲイのカップルばかり。それはそれで気兼ねがなくて楽しいのだけれど、やはり本来の趣旨とはちょっと外れているのかもしれないと思っていた矢先のこと。2004年1月の交流会にヘテロカップルが参加することになりました。ところが、直前に不参加となり、結局はその日もゲイのカップルだけになってしまったわけです。翌2月にはカップル交流会のメンバーが中心となり、初の「カップル」の枠組みを超えた集まりである「交流会」が企画され、秩父へ毎狩りへと出かけていきました。でも結局この時も集まったのはゲイばかり。流石に1月の出来事もあったので、ヘテロカップルも参加できるイベントはないものかと皆で思案した結果、いきなり外に連れ出すよりも、まずはネストで慣れてもらって、徐々にセクシャリティーの垣根を越えていった方がいいのではないかという結論に至り、ネストで食事会をしようという原案が出来上がりました。

そして、その場の成り行きで僕と僕のパートナーを含む4人(2組のカップル)が実行委員として動くことになったわけです。その時に生島さんが「日本に住んでいる外国人の陽性者とも交流しない？」と言出し、今回の企画が生まれました。

打ち合わせは3月に入ってから数回行われました。できれば、外国人支援団体の方々にも話し合いの段階から参加してもらいたかったのですが、結局その目標は果たすことができず、次回以降の課題です。

話し合いの場で一番の問題になったのが、会場の収容能力でした。当日何人来るのか想像ができなかったから、果たして本当にネストで入りきるのか、他に場所を探した方がいいのではないかとか様々な意見が出されました。ただ、ネスト以外の場所にした場合、果たしてヘテロの方々の参加を促せるのかというところは、かなり採めました。ネストでやるからこそ当初の目的が果たせるのではないかと。最終的には井勘定的に参加人数の判断をして、ネストに決定して結果的には正解でした。

準備段階で何が一番大変だったかって、たぶん僕と僕のパートナーは間違いなく「翻訳」と答えると思います。確かに日常会話をする分には支障がないくらいに外国語を操ることはできると自負していますが、まさか翻訳までしなければならぬなんて思いもしませんでした。正式に外国人支援団体にも声をかけようということになった際に、生島さんから「案内を各国語版に翻訳できたらいいね？」なんて言われて、ついうっかり(?)「そうだね」なんて言っただけで、案内文の翻訳から当日の挨拶・グランドルールまで、さまざまな日本語を外国語に翻訳する羽目になりました。正直言って、こんなにまじめに外国語への翻訳をしたのは初めてでした。しかも、相談のできる外国人が周りにいないために、「カップル交流会」等々一人では考えあぐねる表現なども多々あり、頭を抱えました。

そんなこんなで迎えた当日。ヘテロカップルや外国人の方々も参加し、各国の料理を堪能し、楽しいひと時を過ごすことができました。そして、自分として何よりもうれしかったのは、某国で僕が陽性者ほやほやの頃にお世話になった方々に、数年ぶりに日本で再会することができたことでした。

企画の段階では第2回なんて考えもつきませんでした。参加された方々からはかなり好評で、もしかしたら定例化するのでは？なんてことが頭をよぎっています。もし第2回+ランチパーティが開催されるのなら、今回来ることができなかった皆さんも次は是非参加してみませんか？一人でもカップルでも日本人でも外国人でもきつと大歓迎されること間違いありません！